

# H-PAF NEWS

Hokkaido Performing Arts Foundation

公益財団法人北海道演劇財団

〒064-0811

札幌市中央区南11条西1丁目ファミール中島公園1F

TEL 011-520-0710 FAX 011-520-0712

E-mail office@h-paf.ne.jp

HP <http://www.h-paf.ne.jp>

## 30周年を機に新たな一歩を

公益財団法人北海道演劇財団 理事長 磯貝 圭子

2025年度後期の事業が無事に終了いたしました。演劇制作事業では10月に札幌座第63回公演「イワンのぼか」、12月には清田・やまびこ座にて、劇のたまご「ブレーメンの音楽隊」を上演。劇場運営ではシアターZOO利用団体による2月の「さっぽろチェホフ祭」や3月の「シアターZOO地下演劇祭」などの新企画により劇場が大いに賑わいました。ワークショップ事業では札幌市から委嘱を受けた「部活動地域移行に係る演劇地域クラブ活動モデル事業[中学生演劇ワークショップ]」のコーディネート、北海道大学リカレント教育推進部と「共生を支えるコミュニティーマネージャー養成プログラム」を行うなど、市や大学と協働しました。また、11月には斎藤歩追悼「歩さんお別れの会」を開催。各事業についてはこの後のページで詳細をお伝えいたします。

さて来たる2026年度、北海道演劇財団は設立30周年を迎えます。演劇をはじめ幅広い分野における創造活動による人材育成と創造環境の充実に努めるとともに、地域文化の振興とまちづくり及び市民活動の促進を行い、もって豊かな地域社会の発展に資することを目的として1996年に設立された当財団。これまで多くの方々のご協力・ご尽力を得て30周年を迎えることができました。心より御礼申し上げます。

30周年記念事業として、10月に札幌座第64回公演「クリスマス・キャロル」、12月には一般財団法人田中記念劇場財団(ジョブキタ北八劇場)との共催で札幌座第65回公演「冬のバイエル」を上演いたします。「クリスマス・キャロル」は2010年の初演時にTGR(札幌劇場祭)で大賞を受賞した作品です。今回は札幌で活動する若手俳優の起用をメインにして芸術監督の清水友陽が新たに創作いたします。「冬のバイ

エル」は2000年に斎藤歩前理事長がTPS(現札幌座)に初めて書き下ろした作品です。道内・道外の他、韓国・ハンガリー・ルーマニア公演など約80ステージ上演され続けてきたレパートリー作品で、13年ぶりの再演となります。公演以外にも「30周年記念誌」の制作を予定。その他の企画も検討中ですが、詳細が決まり次第順次お知らせいたします。

そして30周年にあたり未来に向けての取り組みも始めます。ここ最近世の中はさらに先行きが不透明な状況となっています。物価の上昇や人材不足はどの業界にとっても大きな問題ですが、札幌の演劇界も例外ではありません。当財団も資金面・人材面など厳しい部分がありますが、創作現場と劇場の継続・発展に向けて、今できることは何だろうと考えてきました。そこでスタートするのが「札幌座」「劇のたまご」に続く「中島公園演劇研究場」という新たな創作カテゴリーです。演劇には「場」が必要です。多様な人が入りして情報や知識の交換をしたり、

議論をしたり、共に考えたり。そのような「場」からアイデアが生まれ、やがて作品になっていく。そんな豊かな時間が流れる演劇の「研究場」が、いまこの街に必要なのではないかと考えました。とはいえ、資金はありません。でも、演劇財団にはお金に代えがたい環境や人材がそろっています。シアターZOOと併設するスタジオ。斎藤歩が残してくれた、たくさんの演劇に関する書籍とノウハウ。芸術監督の清水友陽の存在。これらを生かして実験と検証を繰り返し、演劇への探求を継続して行う「場」となることを目標とします。時間はかかるかもしれませんが、地下に潜ってやがて芽が出るのを待つように、この「研究場」から新たな作品が生まれるよう、じっくりと育てていきたいと思えます。

これまで皆様楽しんでいただいた過去の作品を大切にしながら、この先5年後10年後この街にどのような演劇を打ち立てていくのかを見据え、30周年の節目を機に新たな一歩を踏み出します。



## 齋藤歩追悼～歩さんお別れの会

公益財団法人 北海道演劇財団 理事長 磯貝 圭子

2025年11月7日(金)から9日(日)まで、6月に逝去された北海道演劇財団前理事長 齋藤歩氏の追悼「歩さんお別れの会」をシアターZOOで執り行いました。北海道演劇財団と札幌座の主催で、シアターZOOとロビーやスタジオを無料で開放しての実施でした。ロビーではこれまでの出演作品の写真展示、モニターでの稽古風景のスライドショー、スタジオでは歩さん作曲の劇中歌が流れる中、「カフカ経由シスカ行き」のトナカイと人形たち、「西線11条のエリア」の電停セット、「冬のバイエル」のピアノを展示しました。実際に歩さんが着ていた「カフカ～」と「瀕死の王さま」の衣装を飾った時にはまるでそこに歩さんが立っているかのような不思議な感覚になりました。また、このお別れの会にあたり、鮎鯉舎関係者の方々が当時の資料をお持ちくださり、貴重なポスターや当時のチラシなどもご覧いただくことができました。劇場の中では2024年に歩さんが出演した3作品「亀、もしくは…」帯広公演 (HTB提供)、「西線11条のエリア」(HTB提供)、最期の舞台出演作となった「カフカ経由 シスカ行き」幕別町公演 (HBC提供)の3作品を上映。上映の合間には、関係者のご厚意によりご提供いただいた歩さんの過去のCM



「歩さんお別れの会」(シアターZOO)

ナレーションを流しました。3日間で道内外からおよそ1000人のお客様が、歩さんとのお別れに足を運んでくださいました。会場にはたくさんのお花やお酒が届けられ、多くの方々が歩さんの死を悼んでいることを実感いたしました。また歩さんへのメッセージを募る

ノートにも、ご来場の方々の思いが数多く綴られていました。

このお別れの会に際し、札幌座公演「暴雪圏」の原作者である直木作作家の佐々木譲様から寄せられた追悼メッセージをご本人の許可を得てここに掲載させていただきます。

おそらく周囲のひとびとみな感慨だろうと思いますが、わたしも、早すぎるだろうという気持ちは何より先に来ます。齋藤歩さんは早い時期からこの重大な個人情報隠してなかったのが覚悟はしていたつもりでしたけれども、じっさいに訃報を伝えられたときには、覚悟など何もできていなかった自分に気がつき、呆然とするだけでした。

歩さんの訃報から、自分の青春期の札幌の演劇事情も思い出していました。あのころ札幌は、一部の演劇好きから「演劇不毛の地」と呼ばれていました。どこと比較しての「不毛」であったのかはわかりませんが、中島公園に黒テントがやってきて、小劇場の、と言えいいのか、それともアンガラ芝居と言えいいのか、どちらであれそれまで話には聴くけれども観たこともないお芝居を観て激しく衝撃を受けた札幌の観客のひとりがわたしであり、それは二十代なかばのことでした。

それからほぼ半世紀が経ちました。いまや札幌を演劇不毛の地と呼ぶひとは世の中にはいないでしょう。むしろ札幌の演劇的環境は、日本の地方都市の中では突出して豊穡ではないかと感じます。その豊かな演劇世界の中心に歩さんがいて、大きな内燃機関を備えた機械のように熱く、力強く、その環境全体を牽引していたわたしには思えます。

わたし自身は歩さんのお芝居の観客として、俳優・歩さんのファンとして、札幌ではもちろん、東京でも、一度は青森でも、歩さんの世界に触れることを楽しみ、かつ多くの刺激を受けてきました。歩さんがわたしの小説を一作、舞台化してくれたことも、わたしの自慢です。

その作品『暴雪圏』がクリエイティブ・スタジオで再演されたとき、アフタートークで歩さんは「次は『エトロフ発緊急電』をやります」と突然言ってくれました。一瞬だけ、あの作品は舞台化不可能だろうと思ったのですが、次の瞬間にわたしも言っていました。「駅通の話になるんですね」と。舞台が見えたのです。その舞台化の手前での歩さんの逝去でした。その私的な無念も含めて、いまあらためて歩さんの活動、活躍を思い起こしています。

佐々木 譲

北海道新聞 DIGITAL

デジタルだけで契約できる  
デジタルコース ¥3,300円

道新デジタル 検索

わたしのまちのニュースがある

## 札幌座第63回公演『イワンのばか』鑑賞記

公益財団法人 北海道演劇財団 評議委員 蔵 隆司

あのトルストイの名作『イワンのバカ』が音楽劇として小さな地下劇場にやってきた。オケピットも用意されていた。冒頭から後ろ舞台の黒幕が開くと演技者楽団の澁刺極まる登場によって、全編これミュージカル仕立てか!との気構えを頭に刷り込んだ。いやいや、一座を率いる坪川拓史の哀愁漂うアコーディオンや、管打楽器がセリフとびたりと寄り添い呼吸合わせも真剣勝負、バラライカが鳴ったのかは記憶にないが、清水演出の企みには十分応える出だしの快走ぶりだった。小さなオペラ公演を思わせる、舞台とピットとの息詰まるやり取りは時に聴衆の呼吸を横取りし引き込む迫力を感じさせた。アンガラ系の小劇場芝居に慣れてきた我々世代にとってもなかなかの出だし、この時点でトルストイというより、清水友陽の世界に引き込まれたようでもある。清水作品については2013年、C.ディケンズ作「ディヴィッド・コパフィールド」の演出が忘れられない。あの世紀の大作に挑み、80人の観客という小さな劇場での大群集劇を見事に作品化した演出能力に度肝を抜かれた印象はいまも忘れ難い。

そんな期待のなか、だれもが畏敬を抱くであろうトルストイ作品、中でも最もポピュラーな作品『イワンのバカ』である。まず、度胸がいいな、と思いつつ清水ワールドに惹き込まれることとなった。相変わらず小劇場で群衆劇を操る清水の舞台は随所に秀逸、奥行きのない奥舞台に深い奥行きを見せたり、大群衆が押し寄せる場面では下手の三角地に数人の存在でそれを推測させるアイデアなど、舞台奥、舞台袖などの効果的な使い方も含めて実に



細やかな舞台づくりであった。おっと、口のきけないマラーニャにスキップ、これもお見事。

さて物語の進行である。この作品のように れっきとした(偉大な)というべきか)小説が先にある場合、映画でもそうだが紛れもない名作と呼ばれる作品を素材として取り上げる場合などと共通の覚悟が必要である。それが、原作尊重主義、あるいは原作から遠く飛翔し別作品に運んで行かれる場合など、もちろんそのどちらが正解というものでもない。この作品は果たしてどのような、もうひとつの『イワンのバカ』の世界に連れて行ってくれるのだろうか。筆者のような文芸作品好きにとっては、後半の一話一話こそ、もう少しゆっくりと進んでほしい、余韻という

か、タメというか、作家の意思を噛んで含めるようにお客に伝えてくれないか!とお願ひしたい気持ちが入り込んでしまふ。トルストイの緻密に仕組まれた人間世界の欲望を自在に操る場面こそそれを願った!トルストイは、後半、それまで他人の喜ぶことに素直だったイワンに敢然と自己主張をさせる。〈兵士は歌を唄うもの〉〈金貨は遊ぶもの〉など。このイワンの逞しい変身、もう少し大見えを切らせては!と筆者は願ってしまった。しかし舞台作品として最後の追い込みに進む清水演出はテンポに迷いはない。そして作家の想いに寄り添い、〈手で働くこと〉の尊さを僕たちに示してくれて、大団円へと導いてくれた。

(写真:高橋克己)

毎朝、1つの発見を。 イチモニ!

月～金 6:00 土～日 6:30 & 9:30

コメンタリー 田口 彩夏  
コメンタリー 藤澤 謙作  
コメンタリー 五十種 裕介  
MC 土屋 まり  
MC 堀水 莉聖  
増田 敏史

6  
の  
HTB

## 劇のたまご音楽劇「ブレーメンの音楽隊」を終えて

舞台手話通訳／舞夢サポーターズ 渡部三枝子



に手話を決める作業に入ります。苦慮したのが歌でした。

字幕がつくことは最初から聞いていたので、翻訳が難しい時はろう者には見てもらってはと提案しましたが、手話監修の二人が納得しません。「字幕だけでは意味が分からない部分がある」物語の動物の心情が表れている歌詞だから、ろう者にも分かるようにしたいと真剣です。日本語と手話の数を比べると圧倒的に手話の数は少ないのです。通訳者と手話監修は相当苦労して翻訳を重ねました。通し稽古時にその成果を見たときはよくぞ頑張ったと心の中で拍手、稽古の中で役者さんとのムーブアラウンドも本当に自然で通訳者だけが浮いていることもなく、清水さんの演出力に脱帽!!

本番ではろう者の観客も来て下さり最高に面白かった、通訳と字幕のお陰で楽しめたと喜んでいただけました。これからも誰もが楽しめる舞台作りを一緒に出来ればと願っております。

最後に、私が一番好きな場面は音楽「猫にかつお節」磯貝さんの猫と通訳の大泉のびつたりとリンクした歌と踊り演歌ちょうで面白かったです。

清水さん劇団の皆さん楽しい舞台でした本当に有難うございました♡

2025年12月公演「ブレーメンの音楽隊」の舞台手話通訳の依頼が入ったのは9月のある日、通称「劇たま」は人気の公演で子供さん向けとは言え、成人のお客さんが多いことも承知していました。

台本、演出の清水さんは複数のお仕事重なっており台本は10月中旬以降になるとのお話でした。初めて舞台手話通訳を付けての公演をどのような形にしたいのかをLINEで相談を重ねました。手話通訳者は2名、固定通訳とムーブアラウンド(役者と一緒に動き回る)を組み込んだ舞台にすることになり、10月19日の顔合わせにお邪魔した時にいただいた台本は数ページ、役者さんたちはその場で読み合わせ、今後どのように台本が出来上がり稽古に進むのだろうか? 正直、一刻も早く台本をいただき手話に翻訳したいところでした。

更に稽古スケジュールをいただくと日中の時間帯、あー一困ったと胸の中で叫んでしまいました。フルタイムで働く会員は稽古参加が難しい、時間的に融通が利く人で舞台に立つだけの手話技術を持っているのは誰? 2名を選ばなければならない。11月の例会で相談しました。そこで決まったのがサポーターズの若手ホープ大泉、小平です。舞台手話通訳には通訳者だけが稽古に参加し、本番を迎えるわけ

はありません。

- ①台本翻訳、稽古場にはろう者の手話監修者
- ②劇団側とろう者のコミュニケーションの通訳者
- ③稽古時にはビデオ録画、ダメ出し記録係

など、大勢で稽古場へ通わせていただきました。台本完成版をいただいたのが11月3日とても面白い作品に出来上がっています。数ページずつ届いた台本を翻訳していましたが、ここからが本格的



(写真:高橋克己)

小さなことから……。

### 岩本・佐藤法律事務所

弁護士 岩本勝彦    弁護士 佐藤昭彦  
 弁護士 中澤拓朗    弁護士 増田 翔

〒060-0042 札幌市中央区大通西9丁目キタコーセンタービルディング6階  
 電話：011-281-3001    FAX：011-281-4139

## 下半期ワークショップ事業

公益財団法人北海道演劇財団 芸術監督 清水 友陽

令和7年度下半期は、年明けに2つ、中学生と社会人を対象にしたプログラムを実施しました。ひとつは、札幌市文化局から委託された、「部活動地域移行に係る演劇地域クラブ活動モデル事業実施業務」です。9月から、1回ごとに完結するものを重ね、11月からは連続して受講してもらい、1月に発表会を行うプログラムを実施しました。演劇部のみならず、学校に演劇部がない中学生が21名参加し、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を50分の書き下ろし新作として上演しました。参加者は1月6～12日の冬休み期間を利用して、連日シアターZOOに集まり、創作活動を行いました。部活動のよさのひとつは、学年を越えて考え方の異なる他者と触れ合うことですが、今回は、学年だけでなく学校も越えて、グループ創作を体験することができ、参加者からも有意義な時間だったとふりかえりがありました。今後、どのように部活動の地域移行が進

むか注目してゆくとともに、劇場でできることは何か、検証する機会となりました。

もうひとつは、北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部と協働して、1月17、18日の2日間、「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラムの演劇創作集中演習」で、プログラム作成・講師派遣を行いました。こちらは社会人の受講生20名が参加しました。「演劇創作を通じて共生社会について考え、その実現を目的に据えたプロジェクトを運営できる人材を育成する」内容で、演劇未経験者を含む受講生のおとなたちが、考え方の異なる他者と、12分から15分の演劇作品を創作するという、なかなかハードなプログラムになりました。両日、午前中はシアターゲームや、傾聴することを含むアクティビティに挑戦してもらい、午後は4グループにわかれて創作活動を行いました。社会人の皆さんが、どのように参加されるのか不安で

はありましたが、笑い声が絶えない、熱量の高い現場になりました。昨年からの講師陣のあいだで、現代社会にあわせたワークショップ進行の話し合いを重ねてきましたが、その効果が良い方向に働いていると実感する機会にもなりました。

次年度も、学校や企業から、ワークショップの依頼が届いています。時代にあわせアップデートしながら、今、何が必要か参加者と講師で話し合える場を提供できるよう、今後も事業に取り組んでゆきます。



銀河鉄道の夜 (写真:高橋克己)

## 私の好きな劇場



劇団fireworks「ダニーと紺碧の海」

私は劇場が好きです。私は劇場という場所を、単なる場所ではなく独自の意思を持った一つの生命体のように思うところがあります。公演を行う際は劇場と対話し、その場所できしか成立しない表現を模索してきました。しかし、シアターZOOという劇場は、いまだに心をつかめていないような気がしています。

提携公演として上演した『ダニーと紺碧の海』は、私なりのシアターZOOという空間に対する切実なアプローチでした。舞台上に水を張り、ロビーで生演奏を行うという演出を試みました。それらはお客さんに作品の世界観に入り込んでもらうための仕掛けであり、ZOOの特

有の響きの中で水の音や水に濡れる反響の壁に反射するという事が生じた時に会話以外の対話を表すことができたらと考えました。真冬の中、水を張るという過酷な空間設定に対し、俳優陣、テクニカル陣は誠心誠意、「水」と「戯曲」と格闘してくれました。彼らの献身的なクリエイションによって、手応えのある、公演ができたと思っています。

しかしながら出来上がった景色を前にしてもなお、劇場からは「まだまだ」と言われている気がしました。

『地下演劇祭』では、出場団体としてまた、運営の立場の両方で関わらせていただきました。自団体として同時期に旗揚げした劇団パーソンズの畠山さんに「おはなししようよ」という台本を書いてもらい、真摯に取り組んでくれる俳優陣と今やってよかった、今やるべき作品作りができました。

また地下演劇祭の“やりたいことをやる”方針の元、様々な経歴、経験を重ねた方々が臆することなく新たな領域にチャレンジし、それがお客さんと溢れたシアターZOOで行われていたのをみた時に運営として関わってよかったと思いました。

劇団fireworks代表 米沢 春花

しかしながら、他の出場者がシアターZOOという空間を理解し、表現へと昇華させていくのを目の当たりにし、その姿には、劇場に「許されている」かのような、空間との深い信頼関係を感じられ、強い嫉妬と憧れを抱かずにはいられませんでした。

2025年度下半期の活動は、私にとってシアターZOOという空間への執着を、より一層深める時間となりました。私は諦めの悪い女です。私はまた何か理由を作ってこの劇場へと通い詰めます。そしていつか私にしかできないシアターZOOでの公演を実現させたいと思います。



第一回シアターZOO地下演劇祭「おはなししようよ」 (写真:高橋克己)

演劇の企画・制作事業

《演劇公演》

- 札幌座第63回公演『イワンのばか』  
(原作:トルストイ 台本・演出:清水友陽)  
10月15日(水)～19日(日)札幌公演(8回公演)  
[扇谷記念スタジオ・シアターZOO]
- 劇のたまご 音楽劇『ブレーメンの音楽隊』  
(原作:グリム童話「ブレーメンの音楽師」 台本・演出:清水友陽)  
12月14日(日)(1回公演)[清田区民センター]  
12月20日(土)～21日(日)(4回公演)[札幌市こどもの劇場やまびこ座]

《ワークショップ》

- 東川第一小学校ワークショップ  
7月11日(金)、10月1日(水)(2回)  
[東川第一小学校]  
講師:前田透、熊木志保
- 札幌緑小学校6年生ワークショップ  
11月12日(水)(1回)  
[札幌緑小学校]  
講師:清水友陽
- 北海道医療大学『疑似患者業務』  
11月23日(日)(1回)  
[北海道医療大学]  
講師:戸澤亮、中塚有里、山本菜穂、岡本朋謙
- 部活動地域移行に係る演劇地域クラブ活動モデル事業  
9月5日(金)～1月12日(月)  
[市民交流プラザ、扇谷記念スタジオ・シアターZOO]  
講師:前田透、熊木志保、中野葉月、竹屋光浩 ほか
- 北海道大学大学院教育推進喜古リカレント教育推進部  
『共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラムの演劇創作集中演習』  
1月17日(土)～18日(日)(2回)  
[扇谷記念スタジオ・シアターZOO]  
講師:清水友陽、磯貝圭子、前田透、佐久間泉真 ほか

劇場運営事業

《シアターZOO企画・提携公演》

- シアターZOO 次世代共創プログラム『磯貝圭子俳優ラボ』  
10月～2月(月2～3回程度)[扇谷記念スタジオ・シアターZOO]  
講師:磯貝圭子(札幌座)
- シアターZOO 次世代共創プログラム『ZOOの小屋裏ワークショップ』  
10月～2月(月1回程度)[北海道演劇財団事務所内ZOOの小屋裏]  
講師:清水友陽(劇団清水企画)
- 道産子男闘呼倶楽部『きのう下田のハーバーライトで』(東京)[提携]  
(作・演出:蓬萊竜太)10月3日(金)～5日(日)(4回公演)
- ゴマに『ゴマに大社』(札幌)[はじめてZOO]  
(作・演出:ホンザワ)10月25日(土)～26日(日)(4回公演)
- 歩さんお別れ会(札幌)[企画]  
11月7日(金)～9日(日)(3日間)
- 『Lakura～追憶～』(札幌)[企画]  
(監督:藤嘉行)11月15日(土)～16日(日)(8回上映)
- 演劇集団シベリア基地『そして、またリンドウの花が咲く』(旭川)[はじめてZOO]  
(作・演出:野口博人)11月22日(土)～23日(日)(4回公演)
- 劇団夕結び『ギョっとしたわたがし』(札幌)[はじめてZOO]  
(作・演出:塩川悠太)11月28日(金)～30日(日)(4回公演)
- 劇団清水企画『三人姉妹』(札幌)[提携]  
(作:A・チェーホフ 台本・演出:清水友陽)12月5日(金)～7日(日)(5回公演)
- 劇団fireworks『ダニーと紺碧の海』(札幌)[提携]  
(作:ジョン・パトリック・シャンメリイ 演出:米沢春花)2月5日(木)～8日(日)(10回公演)
- さっぽろチェホフ祭実行委員会『さっぽろチェホフ祭』(札幌)[提携]  
2月21日(土)～23日(月)(9回公演)
- 劇団碧い海『ブルーレンジャーズ』(石狩)[企画]  
(脚本:常本亜実 演出:榎引千佳)3月15日(日)(1回公演)
- 弦巻楽団演技講座2025年度3学期舞台に立つ『マクベス』(札幌)[常連ZOO]  
(脚本:ウィリアム・シェイクスピア 演出・指導:弦巻啓太)3月21日(土)～22日(日)(4回公演)

《シアターZOO一般貸出》

6団体 10日間

# 公益財団法人北海道演劇財団にご支援をお願いします。

北海道演劇財団は、民間による演劇に特化した財団法人として、演劇で北海道の文化芸術を活発にし、道内各地で上質な舞台芸術に触れる機会を飛躍的に増やしてまいりました。今後もこれまでの活動に加え、未来を担う子どもたちや、地域で暮らす皆さんに、表現・創造・出会いの豊かさを伝える取り組みを拡げ、北海道にとって、演劇が必要不可欠な存在であると実感できるための事業を、さらに推し進めてまいります。なにとぞ、皆さまからのご支援を、お願い申し上げます。



## ご寄付によるご支援

ご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。

法人および個人のご寄付の場合、優遇措置を受けるには確定申告の届け出と「寄付金受領書」(本財団発行)の添付が必要です。ご寄付に関する詳細と、「寄付金お申込書」のダウンロードは、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

<http://www.h-paf.ne.jp/support/>

QRコードからは  
コチラ



## ご協賛・ご後援によるご支援

オフィシャルパートナーとしてのご支援を、お願いしています。

**特別支援団体** 年額/100万円

- 広報紙「H-PAF NEWS」に貴団体の広告を掲載させていただきます。
- 劇場ロビー、広報紙、ホームページ、当財団が主催する公演のチラシ、劇場受付に掲示するパネルに貴団体のお名前・ロゴを掲載させていただきます。
- 当財団が主催する公演にご招待させていただきます。

**協賛団体** 年額/10万円

- 広報紙「H-PAF NEWS」に貴団体のお名前を掲載させていただきます。
- 劇場受付に掲示するパネルに貴団体のお名前・ロゴを掲載させていただきます。
- 当財団が主催する公演にご招待させていただきます。

**後援会会員** 年額/10万円

- 広報紙「H-PAF NEWS」に会員様のお名前を掲載させていただきます。
- 当財団が主催する公演のご案内を送付させていただきます。

ご寄付・オフィシャルパートナーについてのお問い合わせ、お申し込みは下記までご連絡ください。

公益財団法人北海道演劇財団 TEL.011-520-0710 E-MAIL office@h-paf.ne.jp

〒064-0811 札幌市中央区南11条西1丁目ファミール中島公園1F FAX.011-520-0712

### 『演劇支援自動販売機』にご協力を!

2011年から北海道キリンビバレッジ株式会社様と連携し、「演劇支援自動販売機」による演劇支援を行っています。自動販売機を気軽に利用して頂くことで、北海道・札幌の演劇を応援! 売り上げの一部が当財団の演劇振興事業推進に使われています。現在、市内6か所に設置されています。

《設置協力社一覧》

- ・アクトコール株式会社
- ・キャトル中島公園
- ・北海道文化放送株式会社
- ・株式会社ノヴェロ
- ・社団法人李仁会 心臓血管センター 北海道大野病院
- ・北海道テレビ放送株式会社

(敬称略)

## 午後の紅茶

北海道キリンビバレッジ株式会社 GOGO-TEA.jp

## もしものために積み立てよう

結婚式や葬儀など、人生の節目に訪れる大切なセレモニーをあいプランの互助会システムがしっかりサポート。

月々のわずかな積み立てで大きな安心を。

月額 **2,000円** × 90回 = **180,000円** (総額)

※施行時に別途消費税相当額をお預かりいたします。

お問い合わせ・ご相談窓口 **0120-335-924**

あいプラン  
オンライン  
入金はコチラ

## NPO法人 札幌座くらぶ 会員募集中!

札幌座くらぶは、観劇し続けることで楽しみながら演劇を応援する団体です。札幌座の他、シアターZOOのラインナップなど、厳選した作品をお楽しみ頂けるほか、サロンの会など俳優・演出家たちとの交流イベントも盛りだくさんです。

年会費/一般:14,000円/学生:10,000円/高校生以下:7,000円  
お申込み・お問い合わせ TEL:011-522-6222 Mail:club@h-paf.ne.jp

## 特別支援団体

岩本・佐藤法律事務所 (株)北洋銀行 北海道テレビ放送(株)  
ホクレン農業協同組合連合会 (株)北海道新聞社 (株)あいプラン

## 協賛団体

岩田地崎建設(株) (株)じょうてつ (株)ほくていホールディングス  
柿崎歯科 創価学会 北海道キリンビバレッジ(株)  
(株)エヌケイウォッシュ (株)創文  
(株)クリエイティブオフィスキュー フルテック(株)

## 後援会会員

(株)アイフードコーポレーションTAMIS (特非)札幌座くらぶ (株)東翔  
秋山不動産(有) 札幌テレビ放送(株) (株)トップシーン札幌  
アクトコール(株) (株)サン設計事務所 (株)ノックアウト  
HTB映像(株) スタジオコパン (株)富士メガネ  
特定医療法人社団慶愛会札幌花園病院 (株)ステージアンサンブル 北海道ガス(株)  
(株)HTBプロモーション セイコーマートながい 北海道文化放送(株)  
NPO法人音更町文化事業協会 (株)ダブルス 北海道放送(株)

おいしいものを食べて弾ける、この笑顔。  
これこそ、世界共通のシアワセ、ゼッタイ最強！  
ホクレンもこの笑顔をめざして北海道の農畜産物をお届けしています。  
北海道のおいしさには、雪がもたらす豊かな水と、爽やかな夏、  
昼夜の寒暖差のある気候と、どこまでも続く大地。  
そして、農家さんの情熱が、ギュッと詰まっているんです。  
さあ、安全でおいしい  
北海道を食べて、  
シアワセになろう。

つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に  
ホクレン

北洋銀行は、演劇に関わる皆さまの活動を応援しています。

Make the HOKKAIDO Way  
北洋銀行

ほく